

内閣府ユース政策モニターからの意見（Webアンケート）

資料 2 - 2

【意見受付期間】 令和 4 年12月 9 日(金)～12月25日(日)

【回答者】 ユース政策モニター（調査時点で10歳～30歳のこども・若者） 281名

No.	質問項目
1-1	「家族・家庭に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
1-2	みなさんのまわりの「家族・家庭」の状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。
2-1	「友人・人間関係に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
2-2	「友人・人間関係」に関する状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。
3-1	「学校に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
3-2	みなさんが通う・通っていた「学校」をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。
4-1	「暮らしているまち」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
4-2	みなさんの「まち」をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。
5-1	「心身の健康やお金など、生活全般に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
5-2	「心身の健康やお金など、生活全般」に関する状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。
6-1	「仕事に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。
6-2	将来のことも含め、みなさんのまわりの「仕事」の状況をより良くするために、どのような取組が必要だと思いますか。
7-1	「結婚・子育てに関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを、そう思う理由とあわせて教えてください。
7-2	質問 7 - 1 で答えていただいたことについて、どのようなもの・人からそう思うようになりましたか。
7-3	将来のことも含め、みなさんのまわりの「結婚・子育て」の状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

※カテゴリは内閣官房の責任で付した。

■ 問 1 – 1. 「家族・家庭に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。(1・2)

(家族と過ごす時間)

- ✓ もっと休日を作ってもらい家族や友達と一杯ふれあう時間がほしいです。(小学生/女性)
- ✓ 学校から帰ると、家族は仕事に行っていて、帰ってきて僕も宿題があるし、お母さんはごはんの支度で忙しくて、あまり一緒の時間がありません。(小学生/選択しない)
- ✓ 家族で過ごす時間がもっと欲しい。共働きで、一緒に家庭で過ごせる時間が少ない。もっと家庭を大切にしたい。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 保護者が育児にかけられる時間がより多くなるような子育て世代へのケアを、地域や企業の力で手厚くして欲しい。(正社員・正職員/男性)

(経済的な困窮)

- ✓ お母さんが働く時間が少なくても、安心して暮らせるくらいの給料がもらえるといいです。(小学生/女性)
- ✓ いつか結婚して子供を産みたいと考えているが、今の社会で育てられるか不安である。金銭的・社会的不安もあるが、自分に子育てができるのか、子供をちゃんとした大人に育てられるかが、一番の懸念点である。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 自分も親のように幸せな家庭を築きたい。出会いを求めて婚活をしているが、もっと費用を抑えて、安心して活動できたらいいなと思う。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 将来、地元において働いて生活していけるか不安。(小学生/男性)

(家族の在り方)

- ✓ 「家族」という関係性だけで人権を蔑ろにしてしまう大人が多いと感じる。「家族だから何でも話すべき」「家族だから、断りなく身体をさわってもいい」等々、家族の前に一人の人間であるという意識が薄い。(高校生/選択しない)
- ✓ 親が子供の意見を尊重する(意見を頭から否定しない)、過干渉にならないと、家で過ごしやすい。子供は親の所有物ではなく、ひとりの小さな人として接するべき。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 「家族は助け合わなければならない」「子どもは親に感謝し敬わなければならない」といった家族観、価値観に苦しめられている人たちが、今の時代は多くいると思う。多様な家族の形、多様な価値観が許容される社会であってほしいと思う。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 家族でも分かり合えないこと、愛していれば何をしてもいいわけではないこと、そういう家族と距離を置くのは悪いことではないという考えが一般的になるといい。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 「親が絶対」みたいな家庭にならないようにしたい。(中学生/女性)
- ✓ 家族に対して期待されている責任が大きいと思います。家族同士では解決が難しい家庭問題もあると思うので、たよりやすい雰囲気をつくる必要があると思います。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 家族に迷惑をかけたくないと思い、本音を言えないときがある。本音を言い合える関係になったら嬉しい。(高校生/女性)
- ✓ 不登校の弟やその他兄弟の世話をし、家事をしなくてはいけないことが負担。(高校生/女性)

■ 問 1 – 1. 「家族・家庭に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。(2/2)

(虐待、DV、性差別)

- ✓ テレビをみると、学校のいじめや、家の中でDVされていることをみます。そういう悪い事がなくなってほしい。(小学生/男性)
- ✓ 虐待やネグレクトが無くなるようになれば良い。(中学生/男性)
- ✓ 性別によって家族内でやらなければならないことが偏らないよう、社会全体として制度を整えたり、メッセージを出してほしい。(正社員・正職員/女性)

(その他)

- ✓ 家族とうまくいかないときに話を聞いてくれる大人が欲しい。(高校生/女性)
- ✓ 「親ガチャ」と呼ばれるような、親の年収・人格・家族構成・夫婦仲など家庭の環境によって子供の未来が大きく左右される現状をどうにか改善してほしい。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 下記のような現状が改善されてほしい。(高校生/女性)
 - 男性の家庭参加が促進されているが、男女共に家庭と仕事を両立できる環境にない
 - 経済的な負担が大きく、余裕がない
 - 子どもの選択肢が親によって大きく左右されてしまう(→社会が支える仕組みが不十分)

■ 問 1 - 2. みなさんのまわりの「家族・家庭」の状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。 (1/2)

(家族と過ごす時間)

- ✓ 休日を増やして、家族と話したり勉強をおしえてもらえる時間がほしいです。(小学生/女性)
- ✓ 大人にも夏休みや冬休みがもっと長くあって、子どもと同じ時期に休みが取れればいい。(小学生/選択しない)
- ✓ お母さんと話をしたり、ご飯を作って食べたり、お風呂に入ったり、髪の毛を乾かしてもらったり、一緒に過ごす時間があると、こころが落ち着く気がするから、家族の時間を作れる取組みがあるといいと思います。(小学生/女性)

(経済的な支援)

- ✓ 子育て世帯が生活に困窮することのないような経済的支援。子ども、親、それぞれの相談窓口や支援。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 経済的な理由でやりたいことや進学を諦めなければならない子どもは、返却不要の奨学金を使ってやりたいことができるようになるといい。みんながやりたいことをやれば、意欲もあって結果的にいい方向に向かっていくのかなと思う。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 経済的余裕、社会保障の充実、家庭以外の居場所の確保。(高校生/女性)
- ✓ 親が正しく子供と接するためには、まず心理的な余裕が必須だと思うので、心理的な余裕を得るために、金銭的余裕や時間的余裕(最低賃金上げる、税金減らす、扶養手当を増やすなど)をする必要がある。(大学生・大学院生/女性)

(こども・若者の居場所)

- ✓ 困ったことがあった時に、すぐに話せる人をみんな持つことが必要。(小学生/男性)
- ✓ 家庭・学校以外の場で、子供の居場所になり子供をさまざまな形でサポートする施設やサービスを作って欲しい。現在、子供の居場所は基本的に家庭か、学校の2択しかない。家庭の問題を学校に、学校の問題を家庭に押し付ける悪循環も生じている。家庭でも学校でもない新たな居場所を作り出すべきだし、家庭や学校で問題を抱えている子供を守り、問題解決をする場であるべきだ。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 家庭・学校のほかに居場所を持つ取組みが必要であると考え。子どもは、この2つの環境が自分のすべてだと思い込んでいると考える。そのため、家庭にも学校にも居場所を見いだせないと、世の中に求められていないと思い悩んでしまう。家庭や学校以外の第三の居場所があれば、素の自分を出すことができたり、新しい活躍の場を得たりできる。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 家族が家族内だけで解決できない問題に対応できる機関やコミュニティがどこの家庭の近くにも必要だと感じます。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)
- ✓ 家族への不満を打ち明ける場が必要。(高校生/女性)
- ✓ 相談しやすい環境をつくる。虐待・暴力からの逃げ場を用意する、加害者側の精神治療といったサポートがあるとよいのではないかと。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 核家族化しているので、孤立しないようにするのがいいと思う。コミュニティの場、社会との繋がり、同じ境遇の人たちとの出会いの場、情報を得られる環境とか。(中学生/男性)

■ 問 1 - 2. みなさんのまわりの「家族・家庭」の状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。 (2/2)

(多様性・相互理解)

- ✓ 多子が不利にならない、むしろ推奨される政策。既に結婚・出産した人への給付金より、未婚化への対策強化。特別養子縁組の推進。家庭擁護原則の徹底。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 多様な家族の形があることが当たり前になることが、生きやすさに繋がると思います。その人の当たり前が否定されないためにも、色んな形の「家族」がいることを周知すべきだと思います。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ お互いもっと歩み寄ること。相手の意見を聞き、受け入れる姿勢を持つこと。(中学生/女性)
- ✓ 人は人、自分は自分の意識。家族という近い存在でも自分とは違う個体だということ意識し、他者を尊重すること。(大学生・大学院生/女性)

(労働環境)

- ✓ 労働時間の無条件の削減(一日の労働時間を8時間から6時間、完全週休3日制)と賃金の上昇。子どもに対する過度な学力競争の抑制。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 子育てをしながら働きやすい環境づくり。(正社員・正職員/女性)

(虐待、DV)

- ✓ 虐待やDVによる家族を支えるための機関をよりサポートしてほしい。(正社員・正職員/女性)

(その他)

- ✓ 保護者に対する、育児や子育て方法の説明会を小学校や中学校で行う。子供の立場でも、親の立場でも相談しやすい窓口などを設置する。(高校生/男性)
- ✓ SNSなどで簡単に同年代の人々が繋がれる仕組み。(中学生/男性)
- ✓ 学校や職場で学期ごとにカウンセラーの方と生徒が1回は話すように企画することが必要だと思います。話すことによって普通だと思っていた事が、実は普通の事ではなかったりすることに気がつけるようになると思うからです。(中学生/女性)

■ 問 2 - 1. 「友人・人間関係に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。

（人間関係上の不安）

- ✓ 友だちに嫌われていないか、不安になることがある。お互いの気持ちを言い合える場があるといいな、と思うことがある。（中学生/女性）
- ✓ クラスやクラブ活動など、普段過ごしているコミュニティと離れる時間が長い、長期休みなどに不安になることがある。（高校生/男性）
- ✓ 一対一なら会話できるが、複数人になると、会話に入るのが難しい。（大学生・大学院生/女性）
- ✓ 友人とは何であるか、ということに悩む。他の人の生活をSNSで比較してしまって辛くなることもある。（大学生・大学院生/女性）
- ✓ 進学後、新たな環境で友人を作れるのか心配。（高校生/女性）
- ✓ 傷つけない、傷つきたくないという思いが強く、深くお互いに入り込まない間柄に落ち着いている。だからさっきまで一緒にいても、楽しく遊んでもそれが相手を深く知ったとか絆が強まったことには繋がらない。（高校生/女性）
- ✓ 人間関係が希薄化しているように思えてならない。同調圧力もあり、若年層での孤立化が図られやすい気がしてならない。SNSの活用法について、情報教育としてさらに力を入れていく、など。（高校生/男性）
- ✓ 大学生になってから限られた友達しか関わらなくなった。（大学生・大学院生/女性）
- ✓ 社会人になったら、友人と呼べる存在はぐっと減りました。新たに所属するコミュニティを見つけやすく、入りやすい社会になったらいいなと思います。（パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性）

（前向きな人間関係）

- ✓ 学校へ行く時は、友達が心の支えになっている。（小学生/男性）
- ✓ 気軽に相談したり、愚痴を言ったりできる相手があると、安心できる。（正社員・正職員/男性）
- ✓ 自分の考えを押し付けずに、(必要以上のアドバイスをしない)学校の先生は相談がしやすいと感じます。ただ自分の話に共感してくれるだけでも十分です。でもそんな大人は自分の周りにはあまりおらず、言えずに溜まっていることもあります。（高校生/女性）

（遊ぶ時間・場所）

- ✓ 友達ともっと遊ぶ時間が欲しい。（小学生/男性）
- ✓ 友達と遊べるところが欲しい。外で騒いでも怒られないところ。（小学生/男性）

（その他）

- ✓ 不登校や障害がある人に対する理解を、もっと確りと深めて欲しい。（中学生/男性）
- ✓ 過疎地域では、地域コミュニティが希薄化していることもあり、地域コミュニティの再構築が必要であるということ。（その他/男性）
- ✓ 日々過ごすコミュニティや家庭で配偶者や家族、親戚等の身近で会話がしやすい環境が整っていることが明るい社会の実現に寄与すると思う。（正社員・正職員/男性）

■ 問 2 - 2. 「友人・人間関係」に関する状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

(相互理解)

- ✓ 互いに認め合う。(小学生/女性)
- ✓ その人の一つ一つを個性として認めることを、確りと学ばせる取組が必要と思う。(中学生/男性)
- ✓ お互いに認め合ったり、尊敬し合うこと。肯定して受け止めてあげること。(高校生/男性)
- ✓ 他者を大切にすること、お互いの立場や状況に想像力を働かせ、自分だったらどうするかと寄り添ってみること。自分もみんなも、それぞれが幸せを感じられるような社会になるといいと思う。(高校生/女性)
- ✓ 本音の会話ができる機会が欲しい。(小学生/男性)
- ✓ 自分の気持ちをうまく表現できる方法を、クラス単位などでテーマなど決めて、時々伝え合えるような機会があると良い。(中学生/女性)
- ✓ 豊かな人間関係が築けるような教育が大事だと思う。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 初等教育、中等教育からのディベートの導入や“意見の否定”と“人格の否定”を切り離しが理解できる教育が必要であると考え。これは友人などの人間関係でも必要なことであると考え。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 人の考えていることや何を言ったら人は傷つくかなどの、当たり前なことが考えられなくなっていると思う。だから、現実世界で人ともっと関わる機会を増やす必要がある！(中学生/女性)

(友人や大人との関わり)

- ✓ 勉強や部活動だけじゃなくて、友だちと過ごす時間が増えたらいい。ぼくの町では児童館を利用するのに学校から一度家に帰らなくてはならない。ランドセルを家に置いて帰ると遊ぶ時間はないです。学童ではなくて、直接遊びに行ったり宿題のできる児童館や広場があればいいと思う。(小学生/選択しない)
- ✓ 年上の人や大人と関わる機会も必要だと考える。何かに思い悩んだ時に、上から目線ではなく、人生の先輩として一緒に悩み、時にアドバイスする人がいると、人間関係の悩みも解決に向かえると思う。(大学生・大学院生/女性)

(いじめ)

- ✓ いじめは普通にあるので、それに対する対応先や相談先、訴える場合の相談先など教えてほしい、やったらこういうペナルティがあったりで大変だよって教えてほしい。(小学生/女性)

(その他)

- ✓ 一つの場所だけでなく自分が存在できる場所を複数もつ。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 学校や児童館での教育の範囲を広げたりして、みんなができるだけ得意なことを増やしたり自信をつけたりして、いじめにまけなかったり、じぶんの意見を持ち主張出来るようにする。(小学生/男性)

■ 問3 – 1. 「学校に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。

(こどもの意見)

- ✓ 自由度が低い、生徒の意見が反映されない、育成方法が時代や特徴に合っていない。(中学生/男性)
- ✓ 学校側が保守的なことが多く、生徒側が新たなことをしようとしても、学校側が拒否することが多い。先生の仕事が多すぎて、いつも疲れているように見える。(高校生/男性)
- ✓ 中学・高校時代に感じていたのは、生徒の意見に、もう少し先生が寄り添ってくれたらいいなと思っていた。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 先生 {大人} が会議で勝手に規則などを決めるのではなく、子どもたちにアンケートなどを取り生徒 {子ども} の意見も聞くようにする。(小学生/男性)
- ✓ 校則の意味について先生から聞く機会があれば、ブラック校則も減り、校則を破る生徒も減ると思う。(高校生/女性)

(経済的な困窮)

- ✓ 中卒で貧困なものもあり諦めていたが、学び直しの機会(通いやすい環境や自由度が高く、補助金などがある)があると社会に出やすくなるのではないかと思う。(無職/選択しない)
- ✓ 大学に行くのにお金がかかりすぎる。今は給付型の奨学金も増えたが、それがなかった時代に金銭的に大学を諦めた社会人にも、給付型の奨学金を受け取れるようにしてほしい。(正社員・正職員/女性)

(教育現場)

- ✓ 教師が忙しすぎる。人が少なすぎて、あらゆる面でフォローしきれていないと感じる。本来の教育の仕事が疎かになる場面が増えていると思う。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 教師に余裕がなく、生徒も相談ごとを遠慮してしまう雰囲気があるように感じる。学級での話し合いなどで、異論を唱えたり適切な批判をしたりする議論がきちんとできていない。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 人間関係など何かしら学校での生活について相談したい時、率直に悩みを言いたくても、他者に伝わるのではないかと懸念して気を遣ってしまったり、今後の人間関係を気にしてしまったりする。また、気軽に相談したい時でも、深刻に捉えられてしまうのではないかと感じて、話しにくい。(高校生/女性)
- ✓ いじめが無くなってほしいです。特に外国人やマイノリティの生徒に対する偏見に起因するいじめは本当に無くなってほしいです。(高校生/女性)

(ICTの活用)

- ✓ 電子黒板導入を進めてほしい。高校でもIT化を進めてほしい。(高校生/男性)
- ✓ タブレットを配ったのに使わない先生が多すぎる。(高校生/女性)

■ 問3 - 2. みなさんが通う・通っていた「学校」をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

(相談できる人・場所)

- ✓ その時々、自分が相談しやすいと思える方法で相談できる機関・システムがあれば良いと思う。対面・オンライン・文面・口頭・匿名など、さまざまな手段を用意してもらえれば、もっと自分に適した相談方法を見つけやすくなり、気軽に相談しやすくなると思う。(高校生/女性)
- ✓ 先生と生徒のコミュニケーション。相談しやすい先生が1人いるだけで、悩みを持っている生徒は本当に救われると思います。(正社員・正職員/女性)
- ✓ スクールカウンセラーをより普及させる。(高校生/女性)

(教員の就労環境)

- ✓ 教員の待遇の改善。職員を増やす。行政関連は教員の仕事から外す。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 教員数を増やすこと、適切な議論について学ぶこと、学習性無気力を育てないこと。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 教員のための指導の際、革新的なアイデアをより受け入れるように促す。教員の給料を増やし、部活動を事実上の教員の仕事としないようにコーチを雇うお金を国が支援したり、部活動を残業扱いにし、残業手当を出す。(高校生/男性)
- ✓ 経済的支援の拡充。教員の負担軽減。(正社員・正職員/女性)

(こどもの意見)

- ✓ 生徒会役員以外の生徒も、学校の運営に積極的に関わるといいと思います。例えば、意見箱を設置して、生徒から意見を集める、など。(高校生/女性)
- ✓ 校則などのことについて、学校に生徒が直接意見を言っても聞いて貰えないため、だれかに仲介をお願いしてみる。(高校生/女性)
- ✓ 校則の規定を見直し、「なぜそれを生徒に守らせるのか」の理由を、教師が生徒の納得できるレベルで説明できるような校則に、更新してほしいです。生徒の将来に生きるような内容にしてほしいと思います。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 学校の規則を、踏襲したり、先生が一方向的に決めたりせず、生徒が民主的に決める取り組み。「声を上げてどうせ先生が認めてくれない」という諦めが、当たり前を疑わず受け入れる姿勢や、社会的無関心につながっていると考える。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 良い意味でも悪い意味でも、学校の先生には影響力がある。生徒はよい評定を貰わなければならないので、我慢をすることもある。でもそれによって深く傷いたり、トラウマになってしまうこともある。(高校生/女性)

(ICTの活用)

- ✓ タブレット端末と教材の融合を進める取り組み。(高校生/女性)
- ✓ オンラインも活用しつつ、休んでも後から授業についていけるようにアーカイブを残す。(高校生/女性)

(その他)

- ✓ 大人の目を増やすこと。こどもを育てるのに不適な大人の存在を見つけやすくなるし、大人の負担が減って余裕が生まれ、丁寧な教育が可能になると思う。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 授業時間を短くする。休み時間を宿題でつぶさない。明るい時間に家に帰れるようにする。大人に休憩時間があるように子どもにも休み時間は必要だと思います。いじめの相談だけじゃなくて、問題がなくても先生と個人的に話す時間をとるといいかもと思いました。(小学生/選択しない)

■問4－1.「暮らしているまち」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。

(居場所)

- ✓ 学校、家庭以外の居場所となるところが少ない。(高校生/女性)
- ✓ 突然行けて突然帰れる様な、自由な場所という物が欲しい。(中学生/男性)
- ✓ 地域の中に子どもたちや若者たちが居れる余白が必要と思う。子どもたちや若者達には、地域の中での政策決定場面の参加は極端に少ない。大人は、子どもたちの意見を必要とはしていない。その中から、子どもや若者が入り込む空間を作っていく必要がある。(正社員・正職員/男性)

(平等な学習機会)

- ✓ 住んでいる地域によって、学びや経験に差が出ない社会にしたい。(正社員・正職員/女性)
- ✓ お金が無い人でも、もっと平等に教育の場が与えられたらより良いと思う。(中学生/女性)
- ✓ 都会のように子供が多く集まり活気のある町と、過疎の進んでいる町とで生活格差が大きく開いてしまっているように感じる。都会以外での生活にメリットが感じられなくなっていることが、都心への子育て世帯の集中を招いてしまっているのではないだろうか。今よりも地方移住や地方創生の取り組みを積極的に行ってほしい。(正社員・正職員/男性)

(公園・遊び場)

- ✓ 公園が少ない。(小学生/女性)
- ✓ 公園の遊具が減っているので、増やしてほしい。公民館のような子供の遊び場がもっと増えてほしい。体験学習を地域ごとの差がなく行えていたらいいと思う。(高校生/女性)
- ✓ 図書館にあるような自習室ではなく、広々としたオープンスペースのような場所があるとうれしい。そこでいろんな学びの相談にのってもらえる人もいてほしい。(高校生/ 選択しない)
- ✓ 雨や雪が降っても、体を動かして思い切り遊べる場所がほしい。(小学生/選択しない)

(その他)

- ✓ 自分は、近所に子供が住んでいる家があるのか、全然知らない。地域の見守り機能が、はたらいっていない気がする。(正社員・正職員/女性)
- ✓ SNSが発展しているにも関わらず、行政に市民の意見・声を届ける手法が少なすぎると思う。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 小学校には児童クラブがあって友達とたくさん遊ぶことができるけれど、中学校にはそういう場所が無いから、児童クラブ的な何かがあってもいいと思う。(中学生/女性)
- ✓ 私も重いものを持たないお年寄りの方のゴミ捨てなど率先して手伝ってます。自分ができることで地域の方に役に立って嬉しいです。(小学生/女性)

■ 問 4 - 2. みなさんの「まち」をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

(コミュニケーションの場)

- ✓ お年寄りも子供も集える場所があれば良いと思う。(小学生/女性)
- ✓ 地域内での交流を深める。(高校生/女性)
- ✓ 地域のコミュニケーションの活性化。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 街の人の意見を中心に世の中を回す事。(高校生/女性)
- ✓ 小学生や中学生と高齢者の交流。これによって、自分と違う考えを持つ人と交流できて、互いにいい刺激になると思う。(中学生/男性)

(街づくり)

- ✓ 地域課題やまちのことについて、若手が考え行動できることを支える事業を、各地方公共団体で実施。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 地域のコミュニティはあるが、年齢層が自分にあっていないと感じるため、若年層向けのコミュニティや施設があればいいなと思う。(正社員・正職員/女性)
- ✓ そもそも行政が街づくりのために何をしているのかわからない。(正社員・正職員/男性)

(意見の反映)

- ✓ 住んでいる人がどんな意見も言えるような場所がほしい。(小学生/男性)
- ✓ 市民の声を行政に届ける手法を増やすべき。デジタル化を推進し、道路の破損や危険な交通現場を通報する手段、パブリックコメントをしやすくする手法、行革に対する意見を集約する方法などを探求し、実行してほしい。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 公園など、役割として子どもに貢献する役割が大きい場合、こどもの意見を重視するなど、その時々に合わせて詳しくヒアリングする対象を変更する。(大学生・大学院生/男性)

(学習の場)

- ✓ 体験学習、大学などの公開講座を増やすこと。新しく子供が安全に遊べる場所を確保すること。(高校生/女性)
- ✓ 国と各地域の自治体がもっと連携して、それぞれの地域の状況に合わせた子供達への取り組み・支援を行ってほしい。(高校生/女性)

(相互理解)

- ✓ 意見が合わない人が居ても多数決では決めない事、最後までお互い納得の出来るまで話し合う。(中学生/男性)

■ 問 5 – 1. 「心身の健康やお金など、生活全般に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。

(経済的な負担)

- ✓ 子どもにかかる経済的負担が大きすぎる。自己肯定感が低い人が多い。(高校生/女性)
- ✓ 教育にかかる費用について、国からの支援をもっと手厚くして欲しい。生きていく上に必要な税金や制度に関する周知をもっと増やして欲しい。男女の収入の差をもっと縮めて欲しい。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)
- ✓ やりたいことや連れて行ってもらいたいことがあるけど、お金の心配をしてしまう。(小学生/女性)

(就労環境)

- ✓ 子育てをしながらの生活にはお金がかかるため仕事に出ており、仕事は苦ではないが、子供を預けるための制限があったりして働く時間が限られたり、ひとりでは子供を育てにくい状況になっている。(専業主婦・家事手伝い/女性)
- ✓ 共働きが当たり前の社会において、男女問わず仕事と育児の両立がしやすい制度や働き方の推進に力を入れて欲しい。子供の数が多いほど子育て支援が手厚くなる制度を充実させて欲しい。(正社員・正職員/男性)

(学費・奨学金)

- ✓ 学びたいことがあって大学院に進んだのに、学費を払うために研究よりバイトを優先する友達がいたり、将来つきたい仕事が若手に対して開かれていなかったりという現状がある。将来が不安で学生生活を楽しめない。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 私立の大学に行きたいが、借金をこれから大量に返していかないといけないのかと思うと諦めそうになる。もっと学びたいという欲求に対して、お金が邪魔をしないようになってほしい。(高校生/女性)
- ✓ 学費の負担を軽減してほしい(貸与型奨学金は借金と変わらないので、給付型奨学金の充実又は学費の減額が望ましい)。社会に出るのが不安。(大学生・大学院生/女性)

(将来への不安)

- ✓ 子供の頃から不景気と言われ続けてきたので、将来に対する期待はずっと無い。給料は上がらないのに物価や税金はどんどん上がっていく。生きるのはずっと辛い。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 給料が低すぎて自立してできない。もらえる予定の年金が低くて定年後の生活が不安。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/選択しない)
- ✓ 老後が心配。年金だけでは足りないらしいから。(高校生/男性)

(その他)

- ✓ 税金や国の制度について学校で教えてほしい。制度は毎年改正されていくと思うので、その情報をどうやって入手すればいいのか、そして自分が理解するところまで落とし込み方を授業で教えてほしい。(正社員・正職員/女性)

■ 問5 - 2. 「心身の健康やお金など、生活全般」に関する状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

(経済的な支援)

- ✓ 子育てや教育にもっと国がお金を出してほしい。(小学生/女性)
- ✓ 出産にかかる費用をそもそもなくす。大学進学を経済的な理由で諦める人がいなくなるよう、奨学金等の充実。過度な女性、男性はこうあるべきという押し付けを抑制する。(高校生/女性)
- ✓ こどもが自由に自分の未来を選択できるように、家庭の状況は関係なくいろんな支援が受けられるようになってほしい。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 老後の2000万円問題をなんとかして欲しい。若者の貧困をなくして欲しい。最低賃金の引き上げ。大学の学費を補助して欲しい。(高校生/男性)
- ✓ 収入によって分けられている給付奨学金の区分をもう少し枠を広げ、もらえる額を大きくする。進学率98%の高校の授業料は公立、私立も無償にする。大学の授業も公立、私立ともに半額は国が負担する取り組みがあればいいと思う。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)

(就労環境)

- ✓ 体が壊すまで、無理して稼がなくても、安心して暮らせる社会作りをして欲しい。(小学生/女性)
- ✓ 賃金をあげたり、物価上昇に対する支援や、税金の使い道の見直しなど。(専業主婦・家事手伝い/女性)

(活きた学習)

- ✓ 机上の勉強だけではなく、税金や国の制度など社会に出た時に困らないような教育が必要だと思う。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 小学校、中学校、高校の授業の中で変額や積立や社会保障をもっと教えた方がいいと思います。(正社員・正職員/女性)

(その他)

- ✓ 10代・20代の若者や30代の子育て世代の声が反映されやすい選挙制度、例えば世代が若い程票数が多い、世代ごとの選挙区を作るといった制度改革をする。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 生活保護を受けることや、精神科にかかることへの偏見をなくしてほしい。(正社員・正職員/女性)

■ 問 6 – 1. 「仕事に関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを教えてください。

(将来への不安)

- ✓ 自分の希望する職業に就けるかどうか心配。(小学生/女性)
- ✓ 将来働くということがうまく想像できない。(中学生/女性)
- ✓ 仕事について、楽しみに明るい話が聞けたらと思う。大変だ、社会は甘くないなど聞いていると大人にはなりたくないとか、働くことも憂鬱になる。物価は上がるが給料は減るとか、現実 is 厳しいことに直面しすぎた。(中学生/女性)
- ✓ 今は新卒採用されてから数年での離職率が高まっているようで、それがとても気になっている。(高校生/女性)
- ✓ 働いても給料が上がることはあまりなく、親世代よりも良い暮らしができそうな見通しは立たず、やるせなさや絶望を感じる。転職したい気持ちはあるが、周囲に転職経験者が少なく、また業界の透明性も低くて不安がつよい。同様の仕事をしているのに派遣や契約社員と正社員とで待遇に差があり、居心地の悪さを感じる。(正社員・正職員/女性)

(仕事を知る機会)

- ✓ 自分に合う仕事を見つけるため、中学校、高校のときから、色々な会社を知るチャンスが欲しい。(小学生/女性)
- ✓ 進学でも同じ事を思ったが、重要な契機となる進路選択に対して、ロールモデルの不足が本人に大きな影響を与えると感じた。(無職)

(就労環境)

- ✓ 雇用形態に関わらずフルタイムで週五日がデフォルトになっていることが多い(学生とか以外)。もっと緩い働き方ができたら、働ける人が増えて、人手不足が解消されると思う。一人一人に求められている仕事量が多すぎる。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 非正規雇用が多すぎる。バイトやパートとしてではなく、主収入の仕事として非正規雇用が多い。非正規雇用だから給与が低くなるとされるが、いつでも切り捨てられる不安定な立場とするのであれば安定した正規職員より高収入にしても良いのでは。(正社員・正職員/女性)

(その他)

- ✓ 保育や介護など、社会にとって重要な職種における低待遇。(正社員・正職員/男性)
- ✓ 新卒カードが使えなくなっても、仕事に就きやすい環境がいまよりもあるといいとおもう。(正社員・正職員/女性)

■問6－2. 将来のことも含め、みなさんのまわりの「仕事」の状況をより良くするために、どのような取組が必要だと思いますか。

(ロールモデル)

- ✓ 大人がいきいきと働いている姿を見て憧れをもつ。(小学生/女性)
- ✓ 会社の人と学生を交流できるチャンスをたくさんあったほうがいいです。(小学生/女性)
- ✓ 仕事について知るために、どのように進路を決めたのか大人にインタビューをする。(中学生/女性)

(多様な働き方)

- ✓ 勤務時間や出退勤の時間など、個々人に合った多様な働き方。(正社員・正職員/女性)
- ✓ その仕事や会社に魅力を感じ、長く勤められるような会社の仕組みづくりをして欲しい。社内の風通しを良くしたり、相談や解決が出来るようサポートする組織だと助かる。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 非正規雇用による短期的な雇用をやめるべきである。正社員でも辞めたい時は辞めるので、人材の流れが全くなくなることはないはずだ。とにかく正規雇用中心の世の中に切り替えるべきである。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)

(雇用形態の改善)

- ✓ 実力のある人を正しく評価し、雇用してくれる社会になるといいなと思います。(中学生/男性)
- ✓ 派遣の3年切りを改善して欲しいです。また、コスパを追求することは、いずれ自分の首を締める事態になりえるので、過剰サービスやサービス残業が当たり前とされている環境を変える必要があります。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)
- ✓ 景気が悪く、給料の増加に対して物価の上昇が多く金銭的余裕がない。なので仕事に対してもモチベーションもないし、やる気もでない。20代後半以下の人は景気のいい時期を知らないの、最低限生きていくために働いている気がする。(正社員・正職員/男性)

(その他)

- ✓ 国家が保育や介護・心理分野（「ケア」に関する）の資格に対し、もっと敬意を払いこれらの分野で働く人々の給与水準を他業種の平均より高い水準の賃金体系にしていかななくてはならないと考える。国家の福祉・教育分野への大規模な資金援助が求められている。(正社員・正職員/男性)

■問7-1.「結婚・子育てに関すること」について、あなたが普段感じていることや、疑問に思っていること、もっとこんな社会になったらいいなと思うことを、そう思う理由とあわせて教えてください。

(結婚・出産への不安)

- ✓ 結婚は、したいと全く思えない。子育てをしながら、仕事もラクに少しだけやるということができのかなと思う。(小学生/女性)
- ✓ 子供は欲しいが、仕事と子育てを両立できる自信がない。(中学生/女性)
- ✓ 結婚や出産に対するイメージが悪いので、子どもを持ちたくない。夫も子育てへ興味がなく、参加してくれそうにないので、今後子どもを産むことはないと思う。
(正社員・正職員/女性)
- ✓ 結婚、子育てにメリットを感じない。特に子育ては魅力よりも経済的な不安の方が大きい。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 結婚はしたい人だけがすばいと思うし、できるだけがすばいと思う。結婚したいと思う人が、経済的理由から断念するようなことがない社会になって欲しいと思う。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)
- ✓ 出会いのなさ、不安定な所得等、結婚しない・できないことの要因が数多く存在すると思う。(正社員・正職員/男性)

(子育てへの危惧)

- ✓ 子育て、家事、仕事を母親一人で行うことはかなり負担が大きいと思う。また、それらは母親が行うもので父親は参加しないという意識は未だ強いように感じる。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 男性は育休制度を使っている人が少ないこと。性別役割分担のイメージがまだ消えないこと。クラスで聞いてみると、将来結婚をしたいと思う人が、年齢を重ねるごとに少なくなっていくこと。(高校生/女性)
- ✓ 子育てがまるで難しくないことかのように見られている。子どもを持つことに躊躇する1番の理由は経済的な負担が大きいことだという調査結果が出ているにも関わらず、政府は支援を怠っている。(高校生/女性)

(その他)

- ✓ こども庁ができることは、一つのチャンスとして捉え、こども関連予算の倍増をお願いします。(その他/男性)
- ✓ 女性も社会進出をするようになって、仕事と子育ての両立が大変になると思う。子供との時間を大切にしたい。(小学生/女性)
- ✓ 子どもを保育する保育士の給与や待遇が低すぎる。(高校生/女性)
- ✓ まだあまり考えられませんが両親仲良いので結婚には前向きです。(小学生/女性)

■ 問 7 - 2 . 質問 7 - 1 で 答 えて いた だ いた こ と に つ い て 、 ど の よ う な も の ・ 人 か ら そ う 思 う よ う に な り ま し た か 。

(家族)

- ✓ 結婚、出産に憧れを持ったのは両親や周囲の人の影響です。ただ、子育ては想像以上に大変でお金がかかると思うようになったのは、大学の学費を知ったときです。(大学生・大学院生/女性)
- ✓ 私は両親が共働きであった結果、六歳の時から夜遅くまで放置されることになった。一応祖母などがたまに来てくれる日もあったが、自分が母になった時他の人に負担をかけることは本意でないことを鑑みると、子供を産みたいとまっすぐには思えない。(高校生/女性)
- ✓ 両親が働きながら家のこともしているのを間近で見ていてそう思った。(中学生/男性)

(友人など)

- ✓ 友人との会話。(大学生・大学院生/男性、正社員・正職員/女性他多数)
- ✓ 子を持つ友人の話、Twitterで見かける子を持つ母親の愚痴など。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 保育者として様々な親御さんに接したり、同年代の友人たちと話をする中で。(正社員・正職員/男性)

(テレビ・新聞)

- ✓ テレビや新聞等の報道。(正社員・正職員/男性、高校生/女性)
- ✓ ニュースをみたから。(小学生/女性)
- ✓ ニュースやCMでお金がかかると話してるから。お母さんとおばあちゃんたちが大学でお金がたくさんかかると話してたから。(小学生/男性)

(SNS)

- ✓ SNSのコメント。評論番組。(高校生/女性)
- ✓ Twitter、YouTubeの発信。(大学生・大学院生/男性)
- ✓ SNSなどで子育てに協力的ではない父親についても書かれていたのを見た。(高校生/女性)

(その他)

- ✓ 婚活している人のブログや本を読んでそう思うようになった。(正社員・正職員/女性)
- ✓ 友人、同級生、先輩、後輩、職場、趣味や地域の人たちとの会話。国会中継などの政治家の無知な発言。学校で受けた教育。病院や支援機関へ相談しに行ったときの回答。保育、介護施設などの職場で働く現場の声。男性しかいない会議室の中継。テレビ、新聞、SNS。(パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性)

■ 問 7 - 3. 将来のことも含め、みなさんのまわりの「結婚・子育て」の状況をよりよくするために、どのような取組が必要だと思いますか。

（仕事と育児の両立）

- ✓ 育休を取りやすくする。男性が当たり前で育児ができる環境になる。パートナー以外の他の人から結婚や子育てに干渉を受けない。仕事の時間が短くなる。（正社員・正職員/女性）
- ✓ 育休を取りやすくする取り組み。結婚によって何がかわるのかの情報発信。（結婚したくない理由の中で、籍を入れる以外何も変わらないなら、結婚する必要がないと思ってる人が多いため）（高校生/女性）
- ✓ 育児と仕事を両立するのは大変だと思う子が親の愛情を受ける為にも、父母共に育休をとらせてあげてほしいと思う。また、虐待に繋がらない為にも、児童相談所の方などが、こまめに訪問して相談や手伝いをしてあげてほしいと思う。自分の周りに恋愛に興味がない人が多いので、そういった人への考えも深めて欲しい。（中学生/男性）
- ✓ 誰でも結婚し、育児ができるために、女性における出産後も職場に復帰しやすい環境づくり、男性における育休が取得しやすい環境づくり。（正社員・正職員/男性）

（結婚・出産への機運醸成）

- ✓ 結婚したい人、子育てをしたい人の経済基盤を確かなものにすること。また、長時間労働をなくし、人々が家庭に割く時間を確保できるようにすることが必要と考える。（パート・アルバイト・派遣社員・契約社員/女性）
- ✓ こどもに優しい国、子育てしやすい国になる必要がありますし、みんなで子育てを支える、こどもは国の宝物なんだという機運を高める必要があるのではないのでしょうか。（その他/男性）
- ✓ 街中での孤独感は減り、子育てする親子が安心して外出でき、「親が幸せそうに子育てしている」から「子どもがいる幸せ」を周りの若者達も感じ、広がるのではないかと。（中学生/男性）
- ✓ 出会いのきっかけのお手伝い、出会いの場所を増やす等。子供を産んだら、お金がかかるのでお祝い金100万円もらえる制度など、若い人が結婚に前向きになれる政策を考えて欲しい。（小学生/男性）

（経済的支援）

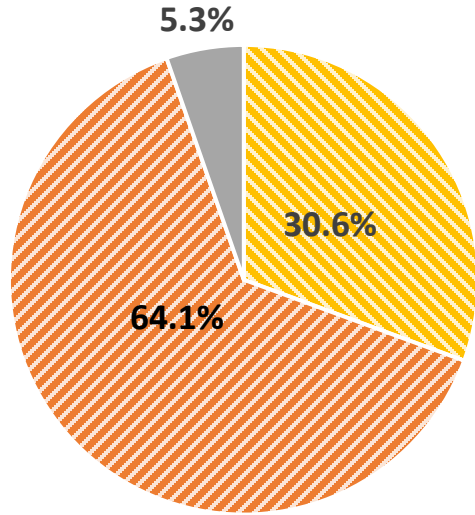
- ✓ もっと金銭的に、生まれる前から成人まで、手厚い保護があれば安心。（高校生/女性）
- ✓ 子育てをしている人にもっとお金を渡したら助かると思う。もっと結婚に興味を持てるようにしてほしい。（小学生/女性）

（その他）

- ✓ 両親や祖父母など、子育ては家族全体で行い、一人ひとりの負担を減らすものであるという意識改革。行政による子育て支援の充実。（正社員・正職員/女性）
- ✓ 子育てを支援する第三者がいると良い。子供を預ける施設でもOK。（小学生/女性）

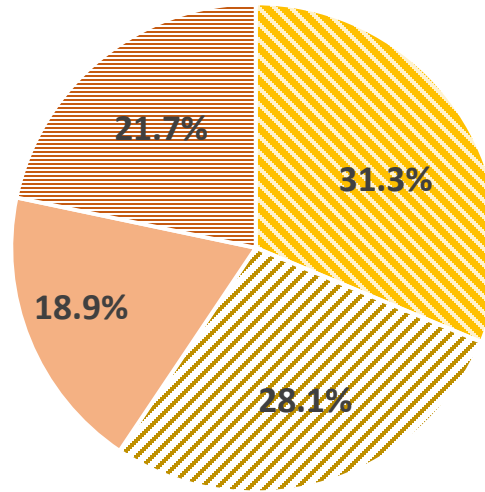
(参考) 性別・年齢・属性の内訳

性別



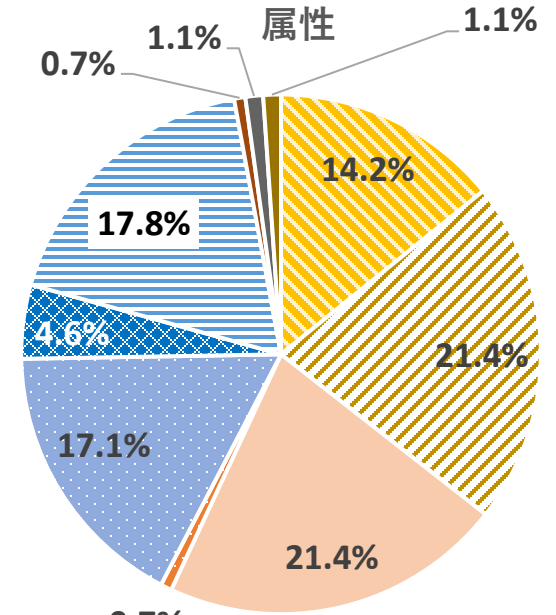
■ 男性 ■ 女性 ■ 選択しない

年齢



■ 10歳～14歳 ■ 15歳～19歳
■ 20歳～24歳 ■ 25歳～30歳

属性



■ 小学生
■ 中学生
■ 高校生
■ 専門学校生・短大などの学生
■ 大学生・大学院生
■ パート・アルバイト・派遣社員・契約社員
■ 正社員・正職員
■ 専業主婦(夫)・家事手伝い
■ 無職
■ その他